

動物実験に関する検証結果報告書

(長崎大学)

動物実験に関する相互検証プログラム

(国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会)

平成 25 年 3 月

平成25年3月25日

長崎大学  
学長 片峰 茂 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設

動物実験に関する相互検証プロジェクト

検証委員会



対象機関：長崎大学

申請年月日：平成24年5月17日

訪問調査年月日：平成24年12月6日

調査員：森本 正敏（熊本保健科学大学）

小出 剛（国立遺伝学研究所）

越本 知大（宮崎大学）

### 検証の総評

長崎大学では、先導生命科学研究支援センターをはじめ7つの部局等で動物実験が実施されている。平成15年4月から実務面においては先導生命科学研究支援センター動物実験施設が、事務面においては研究国際部が中心となり、文部科学省の基本指針に準拠して「長崎大学動物実験規則」が制定され、全学の動物実験委員会を組織することで動物実験の適正な実施体制が構築されている。動物実験計画は随時のWEB審査体制が構築され、利用者にも好評で審査件数も増えており、学内における動物実験計画の詳細な把握と管理を可能にしている。また、実験実施者に対して先導生命科学研究支援センター動物実験施設利用者講習会および各学部において教育訓練が行われており、医学部においては動物実験が含まれる学生実習や3年次の基礎配属時に対しても教育訓練が行われている。長崎大学における動物実験の中核施設である先導生命科学研究支援センター動物実験施設は全学措置で改修工事と増築工事を完了し、この地区の動物実験のセンターへの集約化が推し進められたことは、大学としての動物実験への理解と研究発展の取り組みとして評価できる。さらに、それ以外の飼養保管施設の設置に関しては、施設ごとの管理マニュアルが策定されるまで学長承認されず、承認後も定期的な再調査が実

施されている点や、年度ごとにすべての飼養保管施設に自己点検評価書の提出を義務づけている点も、全学規模で実験動物管理の質を向上させる取り組みとして評価できる。

一方で、動物実験計画の審査、報告に関して学長の決裁記録が必ずしも残る仕組みとなっておらず、事務的な工夫を期待したい。また、有害化学物質を用いた動物実験の管理について先導生命科学研究支援センター動物実験施設の内規までしか策定されていない点に関しても、改善の余地があると考えられる。

## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

「長崎大学動物実験規則」が定められ、その内容は文部科学省基本指針に則したものである。よって、機関内規程についての自己点検・評価は妥当である。

##### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

##### 4) 改善に向けた意見

特になし。

#### 2. 動物実験委員会

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

「長崎大学動物実験規則」で文部科学省基本指針に則した委員会の役割や委員構成などが定められ、11名の委員による委員会が動物実験計画書の審査、自己点検・評価や情報公開に関する事項を審議あるいは調査をしている。よって、動物実験委員会についての自己点検・評価は妥当と判断する。

##### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

年度ごとに動物実験計画の立案、審査、承認、実施結果の報告および改善の指導などを実施する体制が整備されている。手続きに必要な様式も定められている。WEBでの審査による円滑な運用が工夫されており、基本指針に則した動物実験の実施体制がよく整備されている。よって、動物実験の実施体制についての自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え実験、感染動物実験、放射線等使用実験について、「組換えDNA実験安全規則」、「生物災害等防止安全管理規則」、「放射性同位元素等安全管理規則」、「研究教育用エックス線装置放射線障害防止管理規則」が定められ、安全管理を要する動物実験の実施体制が整備されている。よって、安全管理を要する動物実験の実施体制についての自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

発がん物質等を含む有害化学物質の一般的な取り扱いについては「長崎大学における毒物及び劇物の取扱いに関する規則」が存在するが、それらを使用する動物実験については先導生命科学研究支援センター動物実験施設以外では具体的な内規やガイドライン等が存在しないため、この点については検討されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設の学長承認には、飼養保管マニュアルの策定が必須事項とされており、17ある飼養保管施設すべてにマニュアルが整備されており、先導生命科学研究支援センター動物実験施設以外においてはそれらに従って、研究者、大学院生、学生等によって適切な実験動物の飼育管理が行われている。また、委員会は飼養保管施設の承認後も必要に応じて飼養保管施設の再調査を行っている。よって、実験動物の飼養保管の体制についての自己点検・評価は妥当と判断する。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

各飼養保管施設では規程に従って飼育管理に関する記録を残しているが、その様式や記録すべき内容は一定ではなく、記録保管期間も設定されていない。したがって飼育管理の記録内容と記録保管期間を学内で統一することを検討されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見

特になし。

## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

平成23年度において動物実験委員会の開催は1回であったが、計画書の審査は随時WEB上で実施されており、それ以外の活動も滞りなく実施されており、事務的記録も保管されている。よって、動物実験委員会の実施状況についての自己点検・評価は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

議事録等を含めた動物実験委員会に関する学長決裁の方法に関して、記録が確実に残るよう今後検討されたい。

### 2. 動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

平成23年度には新規と変更をあわせて159件の動物実験計画書が審査を受け承認されている。また前年度の実施結果は、一部の転出者を除きすべて報告されている。よって、動物実験の実施状況についての自己点検・評価は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会の委員の一部が生物災害等防止委員会および組換えDNA実験安全委員会を兼ねることで実験計画の段階から情報の共有が図られている。さらに、動物実験計画書の書式にも関連情報の記載欄が設けられている。よって、安全管理を要する動物実験の実施状況についての自己点検・評価は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 4. 実験動物の飼養保管状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

17ある飼養保管施設すべてに飼養保管マニュアルが整備されている。さらに、毎年すべての飼養保管施設に自己点検評価の提出を義務づけおり、提出率も100%である。これにより施設ごとの動物使用数や検疫記録や微生物モニタリング実施の有無について委員会で一元管理されており、問題も発生していない。よって、実験動物の飼養保管状況についての自己点検・評価は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

先導生命科学研究支援センター動物実験施設では、全学措置で改修工事と増築工事が終了し、坂本地区の動物実験を集約することが進んでいる。毎年度各飼養保管施設の実験動物管理者が提出している「動物実験に関する自己点検調査票」により、動物実験委員会が把握しており適切に管理されている。よって、実験動物の施設等の維持管理の状況についての自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

訪問調査をした薬学部飼育室は明暗制御が設定されているにもかかわらず、自然光が前室から飼育室に入る構造となっていた。遮光の方法などに工夫が求められる。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成23年度の教育訓練は先導生命科学研究支援センター動物実験施設で13回、環境科学部および水産学部で3回実施され、それぞれで188人および43名の受講者があった。講習内容を含めこれらの記録も適切に保管されていた。よって、実験動物の飼養保管状況についての自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

自己点検・評価の内容や方法は妥当なものであり、情報公開も基本指針に則した内容が長崎大学ホームページ上で公開されている。よって、基本指針に適合し、自己点検・評価、情報公開が実施されており、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

本検証結果についても、速やかに公開されたい。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

意見

特になし。